

# 三重県共有デジタル地図データ品質評価手順書

---

平成25年6月

三重県市町総合事務組合

---

# 目次

---

- 1. 概要 ..... 1
  - 1.1. 目的.....1
  - 1.2. 適用範囲.....1
  - 1.3. 品質評価の項目 .....1
- 2. 品質評価手順 ..... 1
  - 2.1. 完全性 .....1
  - 2.2. 論理一貫性 .....13
  - 2.3. 位置正確度 .....17
  - 2.4. 主題正確度 .....23
  - 2.5. サンプルング .....30

## 1.概要

### 1.1.目的

本品質評価手順書（案）は、地理情報の国際規格（ISO/TC211）及び国土地理院が主体となり検討している国内規格（政府の技術標準である地理情報 JIS 及び地理情報標準）に準拠する「三重県共有デジタル地図データ」の空間データの品質を評価することを目的としている。

### 1.2.適用範囲

本品質評価手順書は、「三重県共有デジタル地図データ製品仕様書」に準拠する空間データに適用する。

### 1.3.品質評価の項目

本業務では、地理情報の国際規格（ISO19113）及び国内規格（地理情報標準-品質原理）を適用する。次に、国際規格及び地理情報標準が規定する空間データの品質の構成要素を示す。

表 1-1 国際規格及び国内規格が規定する品質評価の項目

データ品質要素	データ品質副要素	説明
完全性	過剰	データ集合内の過剰なアイテムの存在の度合い
	漏れ	データ集合からのアイテムの欠落の度合い
概念一貫性	書式一貫性	アイテムがデータ集合の物理構造を規定する規則に従って格納されている度合い
	概念一貫性	概念スキーマ規則（XML スキーマで表現される概念スキーマ規則）の遵守の度合い
	定義域一貫性	属性値が定義域に含まれる度合い
	位相一貫性	明示的に符号化した位相的特性の正しさの度合い
位置正確度	絶対正確度	測定された座標値と真又は真とみなす座標値との近さ
	相対正確度	地物の相対位置と真又は真とみなす個々の相対位置との近さ
	グリッドデータ位置正確度	グリッド（格子点）データ位置と真又は真とみなすデータ位置との近さ
時間正確度	時間測定正確度	測定された時間属性の示す時間（有効時間）と真又は真とみなす時間（有効時間）との近さ
	時間一貫性	事象系列の順序関係の正しさの度合い
	時間妥当性	報告されたトランザクション時間と真又は真とみなす値との近さ

主題正確度	分類の正しさ	地物，地物属性又は地物関連に割り当てられた分類値と論議領域（例えば，グラウンドトゥールース，参照データ集合）との比較
	非定量的主題属性の正しさ	他と区別するための符号（非定量的属性）の正しさの度合い
	定量的主題属性の正確度	大小又は順序を示す数（定量的属性）と真又は真とみなす数との近さ

「三重県共有デジタル地図データ製品仕様書」が規定する“品質要求”に基づく、データ品質要素・データ品質副要素ごとの品質評価手順を次章に示す。

## 2.品質評価手順

「三重県共有デジタル地図データ製品仕様書」が規定する品質要求は、「公共測量作業規程」が定める地図情報レベル 2500 数値地形図に対する品質とデジタル地図データの有効利用のため真幅道路、徒歩道、庭園路、建設中の道路は地図情報レベル 1000、その他地物は地図情報レベル 2500 で品質要求を設定している。これは、三重県共有デジタル地図データの用途の一つに“都市計画分野の GIS 利用”があり、この目的を実現するために満足しなければならない品質を新たに設定している。

### 2.1.完全性

完全性の検査は、現地又は現地とみなすデータ（資料）との目視検査によって品質を測定する。

- ① 基本図データを透過性のあるマイラ図面に出力する。もしくはベクターデータを準備する。
- ② 航空写真によって確認できる地物については、航空写真と基本図データを出力したマイラ図面とを重ねる、または、オルソ画像を背景に基本図ベクターデータと比較し地物の過不足を確認する。
- ③ 行政界については、入力元資料である既存の図面と基本図データを出力したマイラ図面とを重ねる、もしくは、入力元資料のラスターデータと基本図ベクターと比較し行政界データの過不足を確認する。
- ④ 遮蔽部等、上記②及び③の手法で品質の測定ができない箇所については、現地に基本図データを出力したマイラ図面（もしくは普通紙図面）を持参し、地物の過不足を確認する。

データ品質 副要素	データ品質 適用範囲	データ品質評価尺度	
		名称	過剰なデータの割合
過剰	行政区、行政界、基準点（図 化機測定による標高点を除く）	定義	データ集合（三重県共有デジタル地図データ）と、参照データ（公園及び行政区域の元資料、座標成果）に含まれる個々のデータ（地物インスタンス）同士の一対一の比較を行い、対応が成立した個数を数え、データ集合内に存在する過剰なデータ（エラー）の割合（誤率）を計算する。次の場合、エラーとする。 <ul style="list-style-type: none"><li>参照データと対応関係がとれない地物インスタンスがデータ集合内に存在する場合。</li><li>データ集合内に同一の地物インスタンスが重複して存在する場合。本体を除き、重複している余分なデータの個数をすべてエラーとして数える。</li></ul> 誤率（％）＝（過剰なデータ数／参照データに含まれるデータの総数）×100

		適合品質水準	0%
データ品質評価手法			
<p>【全数検査】</p> <p>①地物型の識別ができるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。</p> <p>②データ品質評価尺度に基づき、誤率を計算する。</p> <p>③計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。</p> <p>誤率＝0% であれば“合格”</p> <p>誤率＞0% であれば“不合格”</p>			

データ品質 副要素	データ品質 適用範囲	データ品質評価尺度	
過剰	道路施設、建物、水域（河川・湖池等）、公園	名称	過剰なデータを含む不良な 50m メッシュの割合
		定義	データ集合（三重県共有デジタル地図データ）を 50m メッシュの区域に分割し、検査対象となるすべての 50m メッシュに対する、過剰なデータを含む不良なメッシュの割合（誤率）を計算する。 50m メッシュの良不良の判定は、50m メッシュごとにデータ集合と参照データ（空中写真、現地調査資料、既成図原図等の元資料）に含まれる個々のデータ（地物インスタンス）同士の対一の比較を行い、次の場合、不良なメッシュとする。 <ul style="list-style-type: none"><li>参照データ（空中写真、現地調査資料、既成図原図等）と対応関係がとれない地物インスタンスが一つ以上、50mメッシュ内に存在する場合。</li><li>50mメッシュ内に同一の地物インスタンスが重複して存在する場合。</li><li>応用スキーマの地物の定義（取得基準）に適合しないデータが当該地物として作成されている場合。但し、空間データの構成上必要と判断された上で作成されているものは、過剰なデータとみなさない。</li><li>過剰なデータ（地物インスタンス）が複数の50mメッシュにまたがる場合は、関係する50mメッシュすべてを不良と判定する。</li></ul> 誤率（％）＝（不良な 50m メッシュ数／検査した 50m メッシュの総数）×100
		適合品質水準	5%以内
データ品質評価手法			
【抜取検査】			

<p>①地物型の識別ができるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。</p> <p>②データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。</p> <p>③ロットは三重県全域とし、検査単位は 2500 国土基本図 1/4 図郭で分割したものとする。</p> <p>④ロット全体の面積の 2%を検査対象とし、市町毎に検査単位を抽出する。</p> <p>検査対象のメッシュは無作為抽出もしくは監督員、検査者が指定したメッシュとする。ただし、旧市町村で必ず 1 メッシュを選択する。</p> <p>無作為抽出は、2500 国土基本図 1/4 図郭に一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海、河川等の白部でないメッシュであること。</li> <li>・検査対象のデータ（地物インスタンス）を含むメッシュであること。</li> <li>・重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。</li> </ul> <p>⑤2500 国土基本図 1/4 図郭の検査単位を 50m×50m の 300 個の 50m メッシュに分割し、データ品質評価尺度に基づき、50m メッシュの良／不良を判定する。</p> <p>50m メッシュの範囲にエラーがなければ "良"</p> <p>50m メッシュの範囲にエラーが 1 件以上あれば "不良"</p> <p>⑥データ品質評価尺度に基づき、サンプルの誤率を計算する。</p> <p>⑦計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。</p> <p>"適合品質水準<math>\geq</math>誤率"であれば"合格"</p> <p>"適合品質水準<math>&lt;</math>誤率"であれば"不合格"</p> <p>※ 但し、一つの 2500 国土基本図 1/4 図郭に適合品質水準を越える 50m メッシュが存在する場合（不良な 50m メッシュが特定の地域に偏って存在する場合）は、たとえ検査単位全体で適合品質水準を満たしたとしても、不合格とする。</p> <p>※測量区域の 2%が 0.75 k m<sup>2</sup>に満たない場合（測量区域が 37.5k m<sup>2</sup>未満の場合）は、必ず 0.75k m<sup>2</sup>を検査する。</p>
--

データ品質 副要素	データ品質 適用範囲	データ品質評価尺度	
過剰	境界補助線、道路境界・中心線、道路施設境界・中心線、鉄道境界・中心線、鉄道施設境界、建物境界、建物付属物、小物体、水部、水部の構造物、構囲等、場	名称	過剰なデータを含む不良な 50m メッシュの割合
		定義	<p>データ集合（三重県共有デジタル地図データ）を 50m メッシュの区域に分割し、検査対象となるすべての 50m メッシュに対する、過剰なデータを含む不良なメッシュの割合（誤率）を計算する。</p> <p>50m メッシュの良不良の判定は、50m メッシュごとにデータ集合と参照データ（空中写真、現地調査資料、既成図原図等の元資料）に含まれる個々のデータ（地物インスタンス）同士の対一の比較を行い、次の場合、不良なメッシュとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参照データ（空中写真、現地調査資料、既成図原図等）と対応関係がとれない地物インス</li> </ul>

	地、植生、変形地、標石を有しない標高点		<p>タンスが一つ以上、<b>50m</b>メッシュ内に存在する場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>50m</b>メッシュ内に同一の地物インスタンスが重複して存在する場合。</li> <li>・ 応用スキーマの地物の定義（取得基準）に適合しないデータが当該地物として作成されている場合。但し、空間データの構成上必要と判断された上で作成されているものは、過剰なデータとみなさない。</li> <li>・ 過剰なデータ（地物インスタンス）が複数の<b>50m</b>メッシュにまたがる場合は、関係する<b>50m</b>メッシュすべてを不良と判定する。</li> </ul> <p>誤率（％）＝（不良な <b>50m</b> メッシュ数／検査した <b>50m</b> メッシュの総数）×100</p>
		適合品質水準	10%以内
データ品質評価手法			
<p>【抜取検査】</p> <p>①地物型の識別ができるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。</p> <p>②データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。</p> <p>③ロットは三重県全域とし、検査単位は <b>2500</b> 国土基本図 1/4 図郭で分割したものとする。</p> <p>④ロット全体の面積の <b>2%</b>を検査対象とし、市町毎に検査単位を抽出する。</p> <p>検査対象のメッシュは無作為抽出もしくは監督員、検査者が指定したメッシュとする。ただし、旧市町村で必ず <b>1</b> メッシュを選択する。</p> <p>無作為抽出は、<b>2500</b> 国土基本図 1/4 図郭に一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海、河川等の白部でないメッシュであること。</li> <li>・ 検査対象のデータ（地物インスタンス）を含むメッシュであること。</li> <li>・ 重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。</li> </ul> <p>⑤<b>2500</b> 国土基本図 1/4 図郭の検査単位を <b>50m</b>×<b>50m</b> の <b>300</b> 個の <b>50m</b> メッシュに分割し、データ品質評価尺度に基づき、<b>50m</b> メッシュの良／不良を判定する。</p> <p><b>50m</b> メッシュの範囲にエラーがなければ "良"</p> <p><b>50m</b> メッシュの範囲にエラーが <b>1</b> 件以上あれば "不良"</p> <p>⑥データ品質評価尺度に基づき、サンプルの誤率を計算する。</p> <p>⑦計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。</p> <p>"適合品質水準≥誤率"であれば"合格"</p> <p>"適合品質水準&lt;誤率"であれば"不合格"</p> <p>※ 但し、一つの <b>2500</b> 国土基本図 1/4 図郭に適合品質水準を越える <b>50m</b> メッシュが存在する場合（不良な <b>50m</b> メッシュが特定の地域に偏って存在する場合）は、たとえ検査単位全体で適合品質水準を満たしたとしても、不合格とする。</p> <p>※測量区域の <b>2%</b>が <b>0.75 k m<sup>2</sup></b>に満たない場合（測量区域が <b>37.5k m<sup>2</sup></b>未満の場合）は、必ず <b>0.75k m<sup>2</sup></b>を検査する。</p>			



データ品質 副要素	データ品質 適用範囲	データ品質評価尺度	
過剰	等高線	名称	等高線の過剰なデータの割合
		定義	検査対象範囲のデータ集合（三重県共有デジタル地図データ）内に存在する等高線の過剰なデータ（エラー）の割合（誤率）を計算する。次の場合、エラーとする。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 同じ計曲線を表すデータが重複して存在する場合、計曲線の過剰なデータとして、その本数（1本を越えた本数）を数える。</li><li>・ 計曲線と計曲線の間に5本以上の主曲線が存在する場合、主曲線の過剰なデータとして、その本数（4本を越えた本数）を数える。</li><li>・ 主曲線と主曲線の間に2本以上の補助曲線が存在する場合、補助曲線の過剰なデータとして、その本数（1本を越えた本数）を数える。</li></ul> 誤率（％）＝（過剰なデータ数／本来作成すべき等高線のデータ数）×100
		適合品質水準	10%以内

データ品質評価手法
<p>【抜取検査】</p> <p>①適用範囲に含まれるデータ（等高線，地図記号又は注記）を表示又は出力する。</p> <p>②データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。</p> <p>③ロットは三重県全域とし、検査単位は 2500 国土基本図 1/4 図郭で分割したものとする。</p> <p>④ロット全体の面積の 2%を検査対象とし、市町毎に検査単位を抽出する。</p> <p>検査対象のメッシュは無作為抽出もしくは監督員、検査者が指定したメッシュとする。ただし、旧市町村で必ず 1 メッシュを選択する。</p> <p>無作為抽出は、2500 国土基本図 1/4 図郭に一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 海、河川等の白部でないメッシュであること。</li><li>・ 検査対象のデータ（地物インスタンス）を含むメッシュであること。</li><li>・ 重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。</li></ul> <p>⑤データ品質評価尺度に基づき、2500 国土基本図 1/4 図郭内のデータをすべて検査し、サンプルの誤率を計算する。</p> <p>⑥計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。</p> <p>"適合品質水準≧誤率"であれば"合格"</p> <p>"適合品質水準&lt;誤率"であれば"不合格"</p> <p>※測量区域の 2%が 0.75 k m<sup>2</sup>に満たない場合（測量区域が 37.5k m<sup>2</sup>未満の場合）は、必ず 0.75k m<sup>2</sup>を検査する。</p>

データ品質 副要素	データ品質 適用範囲	データ品質評価尺度	
過剰	地図記号、三重県共有デジタル地図注記	名称	記号及び注記の過剰なデータの割合
		定義	データ集合（三重県共有デジタル地図データ）と、参照データ（監督員が真とみなす入力基図又は記号・注記の一覧等）に含まれる記号及び注記データ同士の一対一の比較を行い、対応が成立した個数を数え、データ集合内に存在する過剰なデータ（エラー）の割合（誤率）を計算する。次の場合、エラーする。 <ul style="list-style-type: none"><li>参照データ（監督員が真とみなす入力基図又は記号・注記の一覧等）と対応関係がとれない余分な記号及び注記がデータ集合内に存在する場合。</li><li>地物インスタンスとの関連をもたない記号及び注記が、データ集合内に存在する場合。</li></ul> 誤率（％）＝（過剰なデータ数／参照データに含まれるデータの総数）×100
		適合品質水準	10%以内
データ品質評価手法			
【抜取検査】 ①適用範囲に含まれるデータ（等高線，地図記号又は注記）を表示又は出力する。 ②データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。 ③ロットは三重県全域とし、検査単位は 2500 国土基本図 1/4 図郭で分割したものとする。 ④ロット全体の面積の 2%を検査対象とし、市町毎に検査単位を抽出する。 検査対象のメッシュは無作為抽出もしくは監督員、検査者が指定したメッシュとする。ただし、旧市町村で必ず1メッシュを選択する。 無作為抽出は、2500 国土基本図 1/4 図郭に一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。 <ul style="list-style-type: none"><li>海、河川等の白部でないメッシュであること。</li><li>検査対象のデータ（地物インスタンス）を含むメッシュであること。</li><li>重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。</li></ul> ⑤データ品質評価尺度に基づき、2500 国土基本図 1/4 図郭内のデータをすべて検査し、サンプルの誤率を計算する。 ⑥計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 "適合品質水準≧誤率"であれば"合格" "適合品質水準<誤率"であれば"不合格" ※測量区域の 2%が 0.75 k m <sup>2</sup> に満たない場合（測量区域が 37.5k m <sup>2</sup> 未満の場合）は、必ず 0.75k m <sup>2</sup> を検査する。			

データ品質 副要素	データ品質 適用範囲	データ品質評価尺度	
漏れ	行政区、行政界、基準点（図 化機測定による標高点を除 く）	名称	データの漏れの割合
		定義	データ集合（三重県共有デジタル地図データ）と、参照データ（公園及び行政区域の元資料、座標成果）に含まれる個々のデータ（地物インスタンス）同士の一対一の比較を行い、対応が成立した個数を数え、データ集合から漏れているデータ（エラー）の割合（誤率）を計算する。 次の場合、エラーとする。 ・ 参照データと対応すべき地物インスタンスが、データ集合内に存在しない場合。  誤率（％）＝（漏れのデータ数／参照データに含まれるデータの総数）×100
		適合品質水準	0%
データ品質評価手法			
【全数検査】 ①地物型の識別ができるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示する。 ②データ品質評価尺度に基づき、誤率を計算する。 ③計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 誤率＝0％　であれば“合格” 誤率＞0％　であれば“不合格”			

データ品質 副要素	データ品質 適用範囲	データ品質評価尺度	
漏れ	道路施設、建物、水域（河 川・湖池等）、公園	名称	データの漏れを含む不良な 50m メッシュの割合
		定義	データ集合（三重県共有デジタル地図データ）を 50m メッシュの区域に分割し、検査対象となるすべての 50m メッシュに対する、データの漏れを含む不良なメッシュの割合（誤率）を計算する。 50m メッシュの良不良の判定は、50m メッシュごとにデータ集合と参照データ（空中写真、現地調査資料、既成図原図等の元資料）に含まれる個々のデータ（地物インスタンス）同士の一対一の比較を行い、次の場合、不良なメッシュとする。 ・ 参照データ（空中写真、現地調査資料等の元資料）と対応すべき地物インスタンスが、50m メッシュ内に存在しない場合。取得基準に適合するデータの欠落は、理由の如何に関わら

			<p>ず漏れのデータとして、その個数を数える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数の<b>50m</b>メッシュにまたがるデータ（地物インスタンス）が漏れている場合は、関係する<b>50m</b>メッシュすべてを不良と判定する。</li> </ul> <p>誤率（％）＝（不良な <b>50m</b> メッシュ数／検査した <b>50m</b> メッシュの総数）×100</p>
		適合品質水準	5%以内

#### データ品質評価手法

##### 【抜取検査】

①地物型の識別ができるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。

②データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。

③ロットは三重県全域とし、検査単位は **2500** 国土基本図 1/4 図郭で分割したものとする。

④ロット全体の面積の **2%**を検査対象とし、市町毎に検査単位を抽出する。

検査対象のメッシュは無作為抽出もしくは監督員、検査者が指定したメッシュとする。ただし、旧市町村で必ず **1** メッシュを選択する。

無作為抽出は、**2500** 国土基本図 1/4 図郭に一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。

- ・海、河川等の白部でないメッシュであること。
- ・検査対象のデータ（地物インスタンス）を含むメッシュであること。
- ・重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。

⑤**2500** 国土基本図 1/4 図郭の検査単位を **50m**×**50m** の **300** 個の **50m** メッシュに分割し、データ品質評価尺度に基づき、**50m** メッシュの良／不良を判定する。

**50m** メッシュの範囲にエラーがなければ "良"

**50m** メッシュの範囲にエラーが **1** 件以上あれば "不良"

⑥データ品質評価尺度に基づき、サンプルの誤率を計算する。

⑦計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき可否を判定する。

"適合品質水準≥誤率"であれば"合格"

"適合品質水準<誤率"であれば"不合格"

但し、一つの **2500** 国土基本図 1/4 図郭メッシュに適合品質水準を越える **50m** メッシュが存在する場合（不良な **50m** メッシュが特定の地域に偏って存在する場合）は、たとえ検査単位全体で適合品質水準を満たしたとしても、不合格とする。

※測量区域の **2%**が **0.75 k m<sup>2</sup>**に満たない場合（測量区域が **37.5k m<sup>2</sup>**未満の場合）は、必ず **0.75k m<sup>2</sup>**を検査する。

データ品質 副要素	データ品質 適用範囲	データ品質評価尺度
--------------	---------------	-----------

漏れ	境界補助線、道路境界・中心線、道路施設境界・中心線、鉄道境界・中心線、鉄道施設境界、建物境界、建物付属物、小物体、水部、水部の構造物、構囲等、場地、植生、等高線、変形地、標石を有しない標高点	名称	データの漏れを含む不良な 50m メッシュの割合
		定義	データ集合（三重県共有デジタル地図データ）を 50m メッシュの区域に分割し、検査対象となるすべての 50m メッシュに対する、データの漏れを含む不良なメッシュの割合（誤率）を計算する。 50m メッシュの良不良の判定は、50m メッシュごとにデータ集合と参照データ（空中写真、現地調査資料、既成図原図等の元資料）に含まれる個々のデータ（地物インスタンス）同士の対一の比較を行い、次の場合、不良なメッシュとする。 <ul style="list-style-type: none"><li>参照データ（空中写真、現地調査資料等の元資料）と対応すべき地物インスタンスが、50m メッシュ内に存在しない場合。取得基準に適合するデータの欠落は、理由の如何に関わらず漏れのデータとして、その個数を数える。</li><li>複数の50mメッシュにまたがるデータ（地物インスタンス）が漏れている場合は、関係する50mメッシュすべてを不良と判定する。</li></ul> 誤率（％）＝（不良な 50m メッシュ数／検査した 50m メッシュの総数）×100
		適合品質水準	10%以内

データ品質評価手法
<p>【抜取検査】</p> <p>①地物型の識別ができるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。</p> <p>②データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。</p> <p>③ロットは三重県全域とし、検査単位は 2500 国土基本図 1/4 図郭で分割したものとする。</p> <p>④ロット全体の面積の 2%を検査対象とし、市町毎に検査単位を抽出する。</p> <p>検査対象のメッシュは無作為抽出もしくは監督員、検査者が指定したメッシュとする。ただし、旧市町村で必ず 1 メッシュを選択する。</p> <p>無作為抽出は、2500 国土基本図 1/4 図郭に一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>海、河川等の白部でないメッシュであること。</li><li>検査対象のデータ（地物インスタンス）を含むメッシュであること。</li><li>重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。</li></ul> <p>⑤2500 国土基本図 1/4 図郭の検査単位を 50m×50m の 300 個の 50m メッシュに分割し、データ品質評価尺度に基づき、50m メッシュの良／不良を判定する。</p> <p>50m メッシュの範囲にエラーがなければ "良"</p> <p>50m メッシュの範囲にエラーが 1 件以上あれば "不良"</p> <p>⑥データ品質評価尺度に基づき、サンプルの誤率を計算する。</p> <p>⑦計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。</p>

"適合品質水準 $\geq$ 誤率"であれば"合格"  
 "適合品質水準 $<$ 誤率"であれば"不合格"  
 但し、一つの 2500 国土基本図 1/4 図郭メッシュに適合品質水準を越える 50m メッシュが存在する場合（不良な 50m メッシュが特定の地域に偏って存在する場合）は、たとえ検査単位全体で適合品質水準を満たしたとしても、不合格とする。  
 ※測量区域の 2%が 0.75 k m<sup>2</sup>に満たない場合（測量区域が 37.5k m<sup>2</sup>未満の場合）は、必ず 0.75k m<sup>2</sup>を検査する。

データ品質 副要素	データ品質 適用範囲	データ品質評価尺度	
漏れ	等高線	名称	等高線データの漏れの割合
		定義	検査対象範囲のデータ集合（三重県共有デジタル地図データ）から漏れている等高線データ（エラー）の割合（誤率）を計算する。次の場合、エラーとする。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 標高差±20mの等高線の間に、計曲線が存在していない場合。</li><li>・ 計曲線と計曲線の間に3本以下の主曲線しか存在しない場合、主曲線データの漏れとして、その本数を数える（例えば3本であればエラーは1つ、2本であればエラーは2つとなる。）。</li></ul> 誤率（％）＝（漏れのデータ数／本来作成すべき等高線のデータ数）×100
		適合品質水準	10%以内

データ品質評価手法
【抜取検査】 ①地物型が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（等高線，地図記号又は注記）を表示又は出力する。 ②データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。 ③ロットは三重県全域とし、検査単位は 2500 国土基本図 1/4 図郭で分割したものとする。 ④ロット全体の面積の 2%を検査対象とし、市町毎に検査単位を抽出する。 検査対象のメッシュは無作為抽出もしくは監督員、検査者が指定したメッシュとする。ただし、旧市町村で必ず 1 メッシュを選択する。 無作為抽出は、2500 国土基本図 1/4 図郭に一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。 <ul style="list-style-type: none"><li>・海、河川等の白部でないメッシュであること。</li><li>・検査対象のデータ（地物インスタンス）を含むメッシュであること。</li><li>・重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。</li></ul> ⑤データ品質評価尺度に基づき、2500 国土基本図 1/4 図郭内のデータをすべて検査し、サンプルの誤率を計算する。 ⑥計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 "適合品質水準≧誤率"であれば"合格"

"適合品質水準<誤率"であれば"不合格"  
 ※測量区域の2%が0.75k㎡に満たない場合（測量区域が37.5k㎡未満の場合）は、必ず0.75k㎡を検査する。

データ品質 副要素	データ品質 適用範囲	データ品質評価尺度	
漏れ	地図記号、三重県共有デジタル地図注記	名称	記号及び注記データの漏れの割合
		定義	<p>データ集合（三重県共有デジタル地図データ）と、参照データ（監督員が真とみなす入力基図又は記号・注記の一覧等）に含まれる記号及び注記データ同士の一対一の比較を行い、対応が成立した個数を数え、データ集合から漏れているデータ（エラー）の割合（誤率）を計算する。          次の場合、エラーとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参照データ（監督員が真とみなす入力基図又は記号・注記の一覧等）とする記号及び注記がデータ集合内に存在しない場合。</li> </ul> <p>誤率（%）＝（漏れのデータ数／参照データに含まれるデータの総数）×100</p>
		適合品質水準	10%以内

#### データ品質評価手法

##### 【抜取検査】

- ①地物型が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（等高線、地図記号又は注記）を表示又は出力する。
- ②データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。
- ③ロットは三重県全域とし、検査単位は2500国土基本図1/4図郭で分割したものとする。
- ④ロット全体の面積の2%を検査対象とし、市町毎に検査単位を抽出する。  
 検査対象のメッシュは無作為抽出もしくは監督員、検査者が指定したメッシュとする。ただし、旧市町村で必ず1メッシュを選択する。  
 無作為抽出は、2500国土基本図1/4図郭に一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。
  - ・海、河川等の白部でないメッシュであること。
  - ・検査対象のデータ（地物インスタンス）を含むメッシュであること。
  - ・重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。
- ⑤データ品質評価尺度に基づき、2500国土基本図1/4図郭内のデータをすべて検査し、サンプルの誤率を計算する。
- ⑥計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき可否を判定する。  
 "適合品質水準≥誤率"であれば"合格"  
 "適合品質水準<誤率"であれば"不合格"  
 ※測量区域の2%が0.75k㎡に満たない場合（測量区域が37.5k㎡未満の場合）は、必ず0.75k㎡を検査する。

データ品質 副要素	データ品質 適用範囲	データ品質評価尺度	
漏れ	図化機測定による標高点	名称	図化機測定による標高点データの漏れの割合
		定義	検査対象範囲のデータ集合（三重県共有デジタル地図データ）から漏れている図化機測定による標高点データ（エラー）の割合（誤率）を計算する。次の場合、エラーとする。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 250m×250m（図上10cm×10cm）に分割したメッシュ内に含まれる図化機測定による標高点データが6点に満たない場合、漏れのデータとして、その個数を数える。</li><li>・ 250m×250m（図上10cm×10cm）に分割したメッシュ内に含まれる図化機測定による標高点、基準点及び等高線数値の注記を合わせた個数が10点に満たない場合、図化機測定による標高点の漏れとして、その個数を数える。</li><li>・ 平地や市街地など等高線描画が希薄な地形の場合、標高点を個数が6点に満たない場合を漏れデータとして、その個数を数える。</li></ul> 誤率（％）＝（漏れのデータ数／検査対象範囲に存在すべき図化機測定による標高点のデータ数）×100
		適合品質水準	10%以内
データ品質評価手法			
<p>【抜取検査】</p> <p>①地物型が識別できるように、図化機測定による標高点と、基準点及び等高線数値の注記のデータを表示又は出力する。</p> <p>②データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。</p> <p>③ロットは三重県全域とし、検査単位は 2500 国土基本図 1/4 図郭で分割したものとする。</p> <p>④ロット全体の面積の 2%を検査対象とし、市町毎に検査単位を抽出する。</p> <p>検査対象のメッシュは無作為抽出もしくは監督員、検査者が指定したメッシュとする。ただし、旧市町村で必ず 1 メッシュを選択する。</p> <p>無作為抽出は、2500 国土基本図 1/4 図郭に一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 海、河川等の白部でないメッシュであること。</li><li>・ 検査対象のデータ（地物インスタンス）を含むメッシュであること。</li><li>・ 重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。</li></ul> <p>⑤データ品質評価尺度に基づき、2500 国土基本図 1/4 図郭内のデータをすべて検査し、サンプルの誤率を計算する。</p> <p>⑥計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき可否を判定する。</p> <p>"適合品質水準≧誤率"であれば"合格"</p>			



"適合品質水準<誤率"であれば"不合格"

※測量区域の2%が0.75 k m<sup>2</sup>に満たない場合（測量区域が37.5k m<sup>2</sup>未満の場合）は、必ず0.75k m<sup>2</sup>を検査する。

## 2.2.論理一貫性

自動検査プログラムによって検査する。

データ品質 副要素	データ品質 適用範囲	データ品質評価尺度	
書式一貫性	データ集合全体	名称	XML 文書の構文のエラーの割合
		定義	データ集合の書式（フォーマット）が、整形式となっていない箇所（XML 文書の構文として正しくない箇所）の割合（誤率）を計算する。データ集合は、整形式の XML 文書（Well-Formed XML）でなければならない。
		適合品質水準	0%
データ品質評価手法			
【全数検査】 データ集合のファイルの書式が XML の文法（構文）に適合しているか、検査プログラム（XML パーサなど）によって評価する。一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。			

データ品質 副要素	データ品質 適用範囲	データ品質評価尺度	
概念一貫性	データ集合全体	名称	符号化仕様の XML スキーマに対する矛盾の割合
		定義	<p>符号化仕様が規定する XML スキーマに対する、データ集合に存在する矛盾の割合（誤率）を計算する。データ集合は、妥当な XML 文書（Valid XML document）でなければならない。XML スキーマに対する XML 文書の妥当性の検査に加え、次の項目についても検査する。</p> <p>■三重県共有デジタル地図データ集合パッケージに関する検査項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地物関連によって参照する地物インスタンスの型（地物型）が、応用スキーマが規定する地物型と合致しない場合、エラーとする。</li> </ul>

		<p>■空間スキーマプロファイルに関する検査項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ集合内のどの地物インスタンスからも参照されない幾何要素が存在する場合、エラーとする。</li> </ul> <p>各クラス単位に検査項目を示す。</p> <p>[GM_Surface]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ orientationの値が+でない場合、エラーとする。</li> <li>・ primitiveで参照するオブジェクトが自身でない場合、エラーとする。</li> <li>・ GM_Surfaceを構成する複数のpatch要素に、同じGM_Polygonが2回以上出現する場合、エラーとする。</li> </ul> <p>[GM_OrientableSurface]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ この型のオブジェクトが存在すれば、エラーとする。</li> </ul> <p>[GM_SurfaceBoundary]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ interior要素に、同じGM_Ringが2回以上出現する場合、エラーとする。</li> </ul> <p>[GM_Ring]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ generator要素に、GM_Curve又はGM_OrientableCurve以外のオブジェクトが出現する場合、エラーとする。</li> <li>・ generator要素に、同じGM_Curve又は同じGM_OrientableCurveが2回以上出現する場合、エラーとする。</li> </ul> <p>[GM_Curve]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ orientationの値が+でない場合、エラーとする。</li> <li>・ primitiveで参照するオブジェクトが自身でない場合、エラーとする。</li> </ul> <p>[GM_OrientableCurve]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ orientationの値が-でない場合、エラーとする。</li> <li>・ primitiveで参照するオブジェクトの型がGM_Curveでない場合、エラーとする。</li> </ul> <p>[GM_LineString]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ controlPointの数が2点未満の場合、エラーとする。</li> <li>・ GM_LineStringの始点及び終点がindirectによって参照されていない場合、エラーとする。</li> <li>・ GM_LineStringの始点及び終点以外の点がdirectによって参照されていない場合、エラーとする。</li> </ul> <p>[GM_PointRef]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ point要素の参照先のオブジェクトがGM_Point以外である場合、エラーとする。</li> </ul> <p>[DirectPosition]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ dimensionの値が2又は3以外である場合、エラーとする。</li> <li>・ coordinateに記録される数値の個数がdimensionの値と異なる場合、エラーとする。</li> </ul> <p>coordinate に記録される数値のセパレータが空白文字以外の場合、エラーとする。</p>
--	--	--

		適合品質水準	0%
データ品質評価手法			
<p>【全数検査】</p> <p>応用スキーマを表現する XML スキーマとデータ集合に矛盾がないか、検査プログラム（バリデータ）によって検査する。一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。</p>			

データ品質 副要素	データ品質 適用範囲	データ品質評価尺度	
定義域一貫性	データ集合全体	名称	地物属性の定義域一貫性のエラーの割合
		定義	地物属性インスタンスの値が、応用スキーマに規定される定義域の範囲に含まれていない場合、その個数をエラーとして数え、その割合（誤率）を計算する。 誤率（％）＝（定義域外の値をもつ地物属性の数／データ集合内の地物属性の総数）×100
		適合品質水準	0%
データ品質評価手法			
【全数検査】 属性の値が、主題属性の定義域並びに地物の空間及び時間範囲の定義域の中にあるか、検査プログラムによって検査する。一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。			

データ品質 副要素	データ品質 適用範囲	データ品質評価尺度	
位相一貫性	都市施設パッケージ	名称	位相一貫性のエラーの割合
		定義	XML 文書として記録されるデータ集合（三重県共有デジタル地図データ）がもつ位相属性及び位相を含む幾何属性の一貫性を検査し、エラーの割合（誤率）を計算する。 誤率（%）＝（位相一貫性のエラーの数／検査対象となるアイテムの総数）×100 ■空間スキーマプロファイルに対する検査項目 [GM_Surface]

			<ul style="list-style-type: none"><li>複数のGM_Polygonで構成されるGM_Surfaceにおいて、他のGM_PolygonとGM_Curveを共有しないGM_Polygonがある場合、一つの面を構成することにならないので、これをエラーとする。</li><li>複数のGM_Polygonで構成されるGM_Surfaceにおいて、patchを構成するGM_Polygonの構成点が他のGM_Polygonの内部に存在する（面のねじれをもつ）場合、エラーとする。</li></ul> <p>[GM_Polygon]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>GM_Polygonを構成する座標がすべて同一平面上に存在しない場合、エラーとする。</li></ul> <p>[GM_SurfaceBoundary]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>interior要素を構成するGM_Ringが、exterior要素を構成するGM_Ringと交差する場合、エラーとする。</li><li>interior要素を構成するGM_Ring同士が互いに交差する場合、エラーとする。</li><li>exterior要素を構成するGM_Ring同士が互いに交差する場合、エラーとする。</li><li>interior要素を構成するGM_Ringが、同じGM_SurfaceBoundaryのinterior要素のGM_Ringに包含される場合、エラーとする。</li></ul> <p>[GM_Ring]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>GM_Ringの始点及び終点以外で自己交差又は自己接触する点をもつ場合、エラーとする。</li></ul> <p>[GM_Curve]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>segementを構成する各線分の終点が次の始点と一致しない場合、これをエラーとする。但し、最後の線分は除く。</li><li>GM_Curveの始点及び終点以外で自己交差又は自己接触する点をもつ場合、エラーとする。</li></ul> <p>[GM_LineString]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>2点又は3点のcontrolPointで構成されるGM_LineStringの始点と終点が同じGM_Pointを参照する場合、エラーとする。</li></ul> <p>GM_LineString が自己交差若しくは始点及び終点以外で自己接触する点をもつ場合、エラーとする。</p>
		適合品質水準	0%

データ品質評価手法
【全数検査】
位置の関係の一貫性が保たれているか、検査プログラムによって検査する。一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。

## 2.3.位置正確度

基本図データの品質の位置正確度は、現地とみなす資料、再図化との比較又は現地測量によって品質を測定する。

### (1) 現地測量

現地との比較によって品質を測定する。

測定には、トータルステーション又は GPS を使用し、既知点からの観測によって測定する。観測実施及び観測値の点検は、公共測量作業規程第 436 条に従う。測定した地物の座標値を、デジタル平板機に記録・格納し、基本図データとの較差を測定する。

### (2) 現地とみなす資料との比較

航空写真から地物の作成ができない行政界等は、既存の図面を“現地とみなす”資料として、位置正確度の品質正確度の測定に使用する。

### (3) 再図化

サンプリングによって特定した地物について地図情報レベル 1000 で再図化を行う。作成した基本図データの座標値と、再図化によって計測した座標値との較差を測定する。

データ品質 副要素	データ品質 適用範囲	データ品質評価尺度	
		名称	座標成果との標準偏差
絶対正確度	基準点（図化機測定による 標高点を除く） ※座標成果がある地物	定義	データ集合（三重県共有デジタル地図データ）内の位置の座標と、より正確度の高い参照データの座標との誤差の標準偏差を計算する（誤差の母平均は、0 とする。）。但し、遮蔽部分（不可視のデータ）は検査対象としない。 ■ 水平位置の誤差の標準偏差 標準偏差 = $\sqrt{((1/n-1) \sum ((x_i-X_i)^2+(y_i-Y_i)^2))}$ xi：データ集合内の検査対象のデータの位置の X 座標 yi：データ集合内の検査対象のデータの位置の Y 座標 Xi：より正確度の高いデータの位置の X 座標 Yi：より正確度の高いデータの位置の Y 座標 n：サンプル数 ■ 標高の誤差の標準偏差 標準偏差 = $\sqrt{((1/n-1) \sum ((h_i-H_i)^2))}$ hi：データ集合内の検査対象のデータの標高値 Hi：より正確度の高いデータの標高値

		適合品質水準	座標成果との標準偏差 0m[単位：メートル]
データ品質評価手法			
<p>【全数検査】</p> <p>①データ品質評価尺度に基づき、適用範囲すべてのデータをサンプルとし、標準偏差を計算する。</p> <p>②計算した標準偏差と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。</p> <p>標準偏差=0m であれば “合格”</p> <p>標準偏差&gt;0m であれば “不合格”</p>			

データ品質 副要素	データ品質 適用範囲	データ品質評価尺度	
絶対正確度	真幅道路、真幅道路境界、 徒歩道、庭園路、建設中の 道路	名称	水平位置の標準偏差
		定義	データ集合（三重県共有デジタル地図データ）内の位置の座標と、より正確度の高い参照データの座標との誤差の標準偏差を計算する（誤差の母平均は、0 とする。）。但し、遮蔽部分（不可視のデータ）は検査対象としない。 ■水平位置の誤差の標準偏差 標準偏差 = $\sqrt{((1/n-1) \sum ((x_i-X_i)^2+(y_i-Y_i)^2))}$ xi：データ集合内の検査対象のデータの位置の X 座標 yi：データ集合内の検査対象のデータの位置の Y 座標 Xi：より正確度の高いデータの位置の X 座標 Yi：より正確度の高いデータの位置の Y 座標 n：サンプル数
		適合品質水準	水平位置の標準偏差 道路 新規測量：0.7m 以内 道路 修正測量：1.0m 以内 [単位：メートル]
データ品質評価手法			
【抜取検査】 ①地物型が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。			

<p>②データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。</p> <p>③ロットは三重県全域とし、検査単位は 2500 国土基本図 1/4 図郭で分割したものとする。</p> <p>④ロット全体の面積の 2%を検査対象とし、市町毎に検査単位を抽出する。</p> <p>検査対象のメッシュは無作為抽出もしくは監督員、検査者が指定したメッシュとする。ただし、旧市町村で必ず 1 メッシュを選択する。</p> <p>無作為抽出は、2500 国土基本図 1/4 図郭に一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海、河川等の白部でないメッシュであること。</li> <li>・検査対象のデータ（地物インスタンス）を含むメッシュであること。</li> <li>・重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。</li> </ul> <p>⑤2500 国土基本図 1/4 図郭の検査単位に明瞭な 21 点を抽出する。</p> <p>⑥抽出した位置の座標と真又は真とみなす座標の誤差を測定する。（新規測量の場合は、<b>現地測量で検証する</b>。修正測量の場合は、現地測量もしくは地図情報レベル 1000 での再図化より検証する。）</p> <p>⑦データ品質評価尺度に基づき、サンプル（データ集合内の検査対象の座標すべて）の誤差の標準偏差を計算する。</p> <p>⑧計算した標準偏差と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき可否を判定する。</p> <p>“適合品質水準<math>\geq</math>標準偏差”であれば“合格”</p> <p>“適合品質水準<math>&lt;</math>標準偏差”であれば“不合格”</p> <p>※ 但し、2500 国土基本図 1/4 図郭単位で計算した標準偏差が適合品質水準を越える場合（特定の地域の標準偏差に偏りがある場合）は、たとえ検査単位全体で適合品質水準を満たしたとしても、不合格とする。</p> <p>※ 測量区域の 2%が 0.75 k m<sup>2</sup>に満たない場合（測量区域が 37.5k m<sup>2</sup>未満の場合）は、必ず 0.75k m<sup>2</sup>を検査する。</p>			
データ品質 副要素	データ品質 適用範囲	データ品質評価尺度	
絶対正確度	道路施設境界・中心線、鉄道境界・中心線、鉄道施設境界、建物境界、建物付属物、小物体、水部、水部の構造物、構囲等、場地、植生、変形地、	名称	水平位置の標準偏差
		定義	<p>データ集合（三重県共有デジタル地図データ）内の位置の座標と、より正確度の高い参照データの座標との誤差の標準偏差を計算する（誤差の母平均は、0 とする。）。但し、遮蔽部分（不可視のデータ）は検査対象としない。</p> <p>■ 水平位置の誤差の標準偏差</p> $\text{標準偏差} = \sqrt{((1/n-1) \sum ((x_i-X_i)^2+(y_i-Y_i)^2))}$ <p>xi：データ集合内の検査対象のデータの位置の X 座標  yi：データ集合内の検査対象のデータの位置の Y 座標  Xi：より正確度の高いデータの位置の X 座標</p>

			Yi：より正確度の高いデータの位置の Y 座標 n：サンプル数
		適合品質水準	水平位置の標準偏差 新規測量：1.75m 以内 修正測量：2.5m 以内 [単位：メートル]

#### データ品質評価手法

##### 【抜取検査】

- ①地物型が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。
  - ②データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。
  - ③ロットは三重県全域の市町毎とし、検査単位は 2500 国土基本図 1/4 図郭で分割したものとする。
  - ④ロット全体の面積の 2%を検査対象とし、市町毎に検査単位を抽出する。
- 検査対象のメッシュは無作為抽出もしくは監督員、検査者が指定したメッシュとする。ただし、旧市町村で必ず 1 メッシュを選択する。
- 無作為抽出は、2500 国土基本図 1/4 図郭に一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。
- ・海、河川等の白部でないメッシュであること。
  - ・検査対象のデータ（地物インスタンス）を含むメッシュであること。
  - ・重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。
- ⑤2500 国土基本図 1/4 図郭の検査単位に明瞭な 10 点を抽出する。
  - ⑥抽出した位置の座標と真又は真とみなす座標の誤差を測定する。（本適用範囲では現地測量もしくは地図情報レベル 1000 での再図化より検証する。）
  - ⑦データ品質評価尺度に基づき、サンプル（データ集合内の検査対象の座標すべて）の誤差の標準偏差を計算する。
  - ⑧計算した標準偏差と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき可否を判定する。
- “適合品質水準 $\geq$ 標準偏差”であれば“合格”  
“適合品質水準 $<$ 標準偏差”であれば“不合格”
- ※ 但し、2500 国土基本図 1/4 図郭単位で計算した標準偏差が適合品質水準を越える場合（特定の地域の標準偏差に偏りがある場合）は、たとえ検査単位全体で適合品質水準を満たしたとしても、不合格とする。
- ※ 測量区域の 2%が 0.75 k m<sup>2</sup>に満たない場合（測量区域が 37.5k m<sup>2</sup>未満の場合）は、必ず 0.75k m<sup>2</sup>を検査する。

データ品質 副要素	データ品質 適用範囲	データ品質評価尺度	
絶対正確度	等高線	名称	標高の標準偏差



		定義	データ集合（三重県共有デジタル地図データ）内の位置の座標と、より正確度の高い参照データの座標との誤差の標準偏差を計算する（誤差の母平均は、0 とする。）。但し、遮蔽部分（不可視のデータ）は検査対象としない。 ■標高の誤差の標準偏差 標準偏差 = $\sqrt{((1/n-1) \sum ((h_i-H_i)^2))}$ h <sub>i</sub> ：データ集合内の検査対象のデータの標高値 H <sub>i</sub> ：より正確度の高いデータの標高値
		適合品質水準	標高の標準偏差 等高線 新規測量：1.0m 以内 等高線 修正測量：1.0m 以内 [単位：メートル]

データ品質評価手法
【抜取検査】 ①地物型が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 ②データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。 ③ロットは三重県全域の市町毎とし、検査単位は 2500 国土基本図 1/4 図郭で分割したものとする。 ④ロット全体の面積の 2%を検査対象とし、市町毎に検査単位を抽出する。 検査対象のメッシュは無作為抽出もしくは監督員、検査者が指定したメッシュとする。ただし、旧市町村で必ず 1 メッシュを選択する。 無作為抽出は、2500 国土基本図 1/4 図郭に一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。 ・海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・検査対象のデータ（地物インスタンス）を含むメッシュであること。 ・重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ⑤2500 国土基本図 1/4 図郭の検査単位に明瞭な 10 点を抽出する。 ⑥抽出した位置の標高と真又は真とみなす標高の誤差を測定する。（本適用範囲では現地測量もしくは地図情報レベル 1000 での再図化より検証する。） ⑦データ品質評価尺度に基づき、サンプル（データ集合内の検査対象の標高すべて）の誤差の標準偏差を計算する。 ⑧計算した標準偏差と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき可否を判定する。 “適合品質水準≧標準偏差” であれば “合格 “適合品質水準<標準偏差” であれば “不合格” ※ 但し、2500 国土基本図 1/4 図郭単位で計算した標準偏差が適合品質水準を越える場合（特定の地域の標準偏差に偏りがある場合）は、たとえ検査単位全体で適合品質水準を満たしたとしても、不合格とする。 ※ 測量区域の 2%が 0.75 k m <sup>2</sup> に満たない場合（測量区域が 37.5k m <sup>2</sup> 未満の場合）は、必ず 0.75k m <sup>2</sup> を検査する。

データ品質 副要素	データ品質 適用範囲	データ品質評価尺度	
絶対正確度	図化機測定による標高点	名称	標高の標準偏差
		定義	データ集合（三重県共有デジタル地図データ）内の位置の座標と、より正確度の高い参照データの座標との誤差の標準偏差を計算する（誤差の母平均は、0 とする。）。但し、遮蔽部分（不可視のデータ）は検査対象としない。 ■ 標高の誤差の標準偏差 標準偏差 = $\sqrt{((1/n-1) \sum ((h_i-H_i)^2))}$ h <sub>i</sub> ：データ集合内の検査対象のデータの標高値 H <sub>i</sub> ：より正確度の高いデータの標高値
		適合品質水準	標高の標準偏差 標高点 新規測量：0.66m 以内 標高点 修正測量：1.0m 以内 [単位：メートル]
データ品質評価手法			
【抜取検査】 ①地物型が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 ②データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。 ③ロットは三重県全域の市町毎とし、検査単位は 2500 国土基本図 1/4 図郭で分割したものとする。 ④ロット全体の面積の 2%を検査対象とし、市町毎に検査単位を抽出する。 検査対象のメッシュは無作為抽出もしくは監督員、検査者が指定したメッシュとする。ただし、旧市町村で必ず 1 メッシュを選択する。 無作為抽出は、2500 国土基本図 1/4 図郭に一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。 ・海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・検査対象のデータ（地物インスタンス）を含むメッシュであること。 ・重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ⑤2500 国土基本図 1/4 図郭の検査単位に明瞭な 10 点を抽出する。 ⑥抽出した位置の標高と真又は真とみなす標高の誤差を測定する。（本適用範囲では現地測量もしくは地図情報レベル 1000 での再図化より検証する。） ⑦データ品質評価尺度に基づき、サンプル（データ集合内の検査対象の標高すべて）の誤差の標準偏差を計算する。 ⑧計算した標準偏差と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき可否を判定する。			

“適合品質水準 $\geq$ 標準偏差”であれば“合格”  
“適合品質水準 $<$ 標準偏差”であれば“不合格”  
※ 但し、2500 国土基本図 1/4 図郭単位で計算した標準偏差が適合品質水準を越える場合（特定の地域の標準偏差に偏りがある場合）は、たとえ検査単位全体で適合品質水準を満たしたとしても、不合格とする。  
※ 測量区域の 2%が 0.75 k m<sup>2</sup>に満たない場合（測量区域が 37.5k m<sup>2</sup>未満の場合）は、必ず 0.75k m<sup>2</sup>を検査する。

## 2.4.主題正確度

主題正確度の検査は、入力対象資料又は現地調査用の簡易デジタルオルソフォトに展開した調査資料による目視検査によって、品質を測定する。

データ品質 副要素	データ品質 適用範囲	データ品質評価尺度	
分類の正しさ	公園、行政区、行政界、基準点（図化機測定による標高点を除く）	名称	地物型の分類のエラーの割合
		定義	データ集合（三重県共有デジタル地図データ）と、参照データ（空中写真、現地調査資料、入力基図、既成図原図等の真とみなす元資料）との比較を行い、地物型が正しく特定されていないデータ数を数え、その割合（誤率）を計算する。  誤率（％）＝（地物型が正しく特定されていないデータ数／参照データに含まれるデータの総数）×100
		適合品質水準	0%
データ品質評価手法			
【全数検査】 ①地物型が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 ②データ品質評価尺度に基づき、誤率を計算する。 ③計算した誤率と適合品質水準を比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 “適合品質水準≧誤率”であれば“合格” “適合品質水準<誤率”であれば“不合格”			

データ品質 副要素	データ品質 適用範囲	データ品質評価尺度	
--------------	---------------	-----------	--

分類の正しさ	道路施設、建物、水域（河川・湖池等）	名称	地物型の分類のエラーを含む不良な 50m メッシュの割合：
		定義	データ集合（三重県共有デジタル地図データ）を 50m メッシュの区域に分割し、検査対象となるすべての 50m メッシュに対する、分類の正しさのエラーを含む不良なメッシュの割合（誤率）を計算する。 50m メッシュの良不良の判定は、検査対象となる 50m メッシュごとに、データ集合と参照データ（空中写真、現地調査資料、入力基図、既成図原図等の真とみなす元資料）に含まれる個々のデータ（地物インスタンス）同士の一対一の比較を行う。50m メッシュ内に地物型が正しく特定されていないデータが一つでも存在すれば、そのメッシュを不良と判定する。 誤率（％）＝（不良な 50m メッシュ数／検査した 50m メッシュの総数）×100
		適合品質水準	5%以内

データ品質評価手法
<p>【抜取検査】</p> <p>①地物型が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。</p> <p>②データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。</p> <p>③ロットは三重県全域とし、検査単位は 2500 国土基本図 1/4 図郭で分割したものとする。</p> <p>④ロット全体の面積の 2%を検査対象とし、市町毎に検査単位を抽出する。</p> <p>検査対象のメッシュは無作為抽出もしくは監督員、検査者が指定したメッシュとする。ただし、旧市町村で必ず 1 メッシュを選択する。</p> <p>無作為抽出は、2500 国土基本図 1/4 図郭に一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・海、河川等の白部でないメッシュであること。</li><li>・検査対象のデータ（地物インスタンス）を含むメッシュであること。</li><li>・重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。</li></ul> <p>⑤2500 国土基本図 1/4 図郭の検査単位を 50m×50m の 300 個の 50m メッシュに分割し、データ品質評価尺度に基づき、50m メッシュの良／不良を判定する。</p> <p>50m メッシュの範囲にエラーがなければ "良"</p> <p>50m メッシュの範囲にエラーが 1 件以上あれば "不良"</p> <p>⑥データ品質評価尺度に基づき、サンプルの誤率を計算する。</p> <p>⑦計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。</p> <p>“適合品質水準≧誤率”であれば“合格”</p> <p>“適合品質水準&lt;誤率”であれば“不合格”</p> <p>但し、一つの 2500 国土基本図 1/4 図郭メッシュに適合品質水準を越える 50m メッシュが存在する場合（不良な 50m メッシュが特定の地域に偏って存在する場合）は、たとえ検査単位全体で適合品質水準を満たしたとしても、不合格とする。</p>

※測量区域の2%が0.75k m<sup>2</sup>に満たない場合（測量区域が37.5k m<sup>2</sup>未満の場合）は、必ず0.75k m<sup>2</sup>を検査する。

データ品質 副要素	データ品質 適用範囲	データ品質評価尺度	
分類の正しさ	境界補助線、道路境界・中心線、道路施設境界・中心線、鉄道境界・中心線、鉄道施設境界、建物境界、建物付属物、小物体、水部、水部の構造物、構囲等、場地、植生、等高線、変形地、図化機測定による標高点	名称	地物型の分類のエラーを含む不良な 50m メッシュの割合：
		定義	データ集合（三重県共有デジタル地図データ）を 50m メッシュの区域に分割し、検査対象となるすべての 50m メッシュに対する、分類の正しさのエラーを含む不良なメッシュの割合（誤率）を計算する。  50m メッシュの良不良の判定は、検査対象となる 50m メッシュごとに、データ集合と参照データ（空中写真、現地調査資料、入力基図、既成図原図等の真とみなす元資料）に含まれる個々のデータ（地物インスタンス）同士の一对一の比較を行う。50m メッシュ内に地物型が正しく特定されていないデータが一つでも存在すれば、そのメッシュを不良と判定する。  誤率（％）＝（不良な 50m メッシュ数／検査した 50m メッシュの総数）×100
		適合品質水準	10%以内
		データ品質評価手法	
【抜取検査】 ①地物型が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 ②データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。 ③ロットは三重県全域とし、検査単位は 2500 国土基本図 1/4 図郭で分割したものとする。 ④ロット全体の面積の 2%を検査対象とし、市町毎に検査単位を抽出する。 検査対象のメッシュは無作為抽出もしくは監督員、検査者が指定したメッシュとする。ただし、旧市町村で必ず 1 メッシュを選択する。 無作為抽出は、2500 国土基本図 1/4 図郭に一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。 ・海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・検査対象のデータ（地物インスタンス）を含むメッシュであること。 ・重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ⑤2500 国土基本図 1/4 図郭の検査単位を 50m×50m の 300 個の 50m メッシュに分割し、データ品質評価尺度に基づき、50m メッシュの良／不良を判定する。 50m メッシュの範囲にエラーがなければ "良" 50m メッシュの範囲にエラーが 1 件以上あれば "不良" ⑥データ品質評価尺度に基づき、サンプルの誤率を計算する。			

⑦計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。  
“適合品質水準 $\geq$ 誤率”であれば“合格”  
“適合品質水準 $<$ 誤率”であれば“不合格”  
但し、一つの 2500 国土基本図 1/4 図郭メッシュに適合品質水準を越える 50m メッシュが存在する場合（不良な 50m メッシュが特定の地域に偏って存在する場合）は、たとえ検査単位全体で適合品質水準を満たしたとしても、不合格とする。  
※測量区域の 2%が 0.75 k m<sup>2</sup>に満たない場合（測量区域が 37.5k m<sup>2</sup>未満の場合）は、必ず 0.75k m<sup>2</sup>を検査する。

データ品質 副要素	データ品質 適用範囲	データ品質評価尺度	
非定量的主 題属性の正 しさ	公園、行政区、行政界、基 準点（図化機測定による標 高点を除く）	名称	非定量的な主題属性のエラーの割合
		定義	データ集合（三重県共有デジタル地図データ）と、参照データ（空中写真、公園及び行政区域の元資料、座標成果等の真とみなす元資料）に含まれる個々のデータ（地物インスタンス）同士の一対一の比較を行い、データ集合内に存在する誤った地物属性インスタンス（エラー）の割合（誤率）を計算する。次の場合、エラーとする。 ・ 地物属性“可視性”の値が正しくない場合。 ・ 地物属性“種別”の値が正しくない場合。  誤率（％）＝（地物属性のエラー数／検査した地物属性の総数）×100
		適合品質水準	0%以内
データ品質評価手法			
【全数検査】 ①地物属性“種別”、“可視性”又は“名称”の値が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 ②データ品質評価尺度に基づき、誤率を計算する。 ③計算した誤率と適合品質水準を比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 “適合品質水準≧誤率”であれば“合格” “適合品質水準<誤率”であれば“不合格”			

データ品質 副要素	データ品質 適用範囲	データ品質評価尺度
--------------	---------------	-----------

非定量的主題属性の正しさ	境界補助線、道路境界・中心線、道路施設境界・中心線、鉄道境界・中心線、鉄道施設境界、建物境界、建物付属物、小物体、水部、水部の構造物、構囲等、場地、植生、等高線、変形地、図化機測定による標高点	名称	非定量的な主題属性のエラーを含む 50m メッシュの割合
		定義	データ集合（三重県共有デジタル地図データ）を 50m メッシュの区域に分割し、検査対象となるすべての 50m メッシュに対する、誤った地物属性の値をもつ地物インスタンスを含む不良なメッシュの割合（誤率）を計算する。 50m メッシュの良不良の判定は、検査対象となる 50m メッシュごとに、データ集合と参照データ（空中写真、現地調査資料、既成図原図等の真とみなす元資料）に含まれる個々のデータ（地物属性）同士の一対一の比較を行う。50m メッシュ内に地物属性にエラーをもつ地物インスタンスが一つでも存在すれば、そのメッシュを不良と判定する。次の場合、エラーとする。 ・ 地物属性“可視性”の値が正しくない場合。 ・ 地物属性“種別”の値が正しくない場合。  誤率（％）＝（不良な 50m メッシュ数／検査した 50m メッシュの総数）×100
		適合品質水準	10%以内

データ品質評価手法
【抜取検査】 ①地物属性“種別”又は“可視性”の値が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 ②データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。 ③ロットは三重県全域とし、検査単位は 2500 国土基本図 1/4 図郭で分割したものとする。 ④ロット全体の面積の 2%を検査対象とし、市町毎に検査単位を抽出する。 検査対象のメッシュは無作為抽出もしくは監督員、検査者が指定したメッシュとする。ただし、旧市町村で必ず 1 メッシュを選択する。 無作為抽出は、2500 国土基本図 1/4 図郭に一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。 ・ 海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・ 検査対象のデータ（地物インスタンス）を含むメッシュであること。 ・ 重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ⑤2500 国土基本図 1/4 図郭の検査単位を 50m×50m の 300 個の 50m メッシュに分割し、データ品質評価尺度に基づき、50m メッシュの良／不良を判定する。 50m メッシュの範囲にエラーがなければ "良" 50m メッシュの範囲にエラーが 1 件以上あれば "不良" ⑥データ品質評価尺度に基づき、サンプルの誤率を計算する。 ⑦計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 “適合品質水準≧誤率”であれば“合格” “適合品質水準<誤率”であれば“不合格”

但し、一つの 2500 国土基本図 1/4 図郭メッシュに適合品質水準を越える 50m メッシュが存在する場合（不良な 50m メッシュが特定の地域に偏って存在する場合）は、たとえ検査単位全体で適合品質水準を満たしたとしても、不合格とする。  
 ※測量区域の 2%が 0.75 k m<sup>2</sup>に満たない場合（測量区域が 37.5k m<sup>2</sup>未満の場合）は、必ず 0.75k m<sup>2</sup>を検査する。

データ品質 副要素	データ品質 適用範囲	データ品質評価尺度	
非定量的主題属性の正しさ	三重県共有デジタル地図注記	名称	非定量的主題属性のエラーの割合
		定義	データ集合（三重県共有デジタル地図データ）と、参照データ（既成図、現地調査資料等の真とみなす資料）に含まれる注記データの一対一の比較を行い、データ集合内に存在する注記データ（三重県共有デジタル地図注記インスタンス）のエラーの割合（誤率）を計算する。次の場合、エラーとする。 ・ 地物属性“文字列”の値の綴りが正しくない場合。但し、当用漢字外の文字は、監督員が認める場合、代替可とする。 誤率（％）＝（注記のエラー数／検査した注記の総数）×100
		適合品質水準	10%以内

データ品質評価手法
【抜取検査】 ①属性“文字列”の値が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 ②データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。 ③ロットは三重県全域とし、検査単位は 2500 国土基本図 1/4 図郭で分割したものとする。 ④ロット全体の面積の 2%を検査対象とし、市町毎に検査単位を抽出する。 検査対象のメッシュは無作為抽出もしくは監督員、検査者が指定したメッシュとする。ただし、旧市町村で必ず 1 メッシュを選択する。 無作為抽出は、2500 国土基本図 1/4 図郭に一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。 ・ 海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・ 検査対象のデータ（地物インスタンス）を含むメッシュであること。 ・ 重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ⑤データ品質評価尺度に基づき、2500 国土基本図 1/4 図郭内のデータをすべて検査し、サンプルの誤率を計算する。 ⑥計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 “適合品質水準≧誤率”であれば“合格” “適合品質水準<誤率”であれば“不合格”



※測量区域の2%が0.75 k m<sup>2</sup>に満たない場合（測量区域が37.5k m<sup>2</sup>未満の場合）は、必ず0.75k m<sup>2</sup>を検査する。

## 2.5.サンプリング

### (1) 全数検査

全数検査は、母集団に含まれるデータ全てを検査する。全数検査を適用するレポーティンググループは、誤りが許されない（誤率 0%）場合又はコンピュータによる自動検査が可能な場合とする。

### (2) 抜取検査

抜取検査は、母集団に含まれるデータをサンプリング（抜取抽出）する。そして、サンプルの品質を測定することによって、母集団全体の品質を推定し、品質を評価する。抜取検査は、全数検査に比べ効率的に品質を評価できるというメリットがあるが、ある程度の誤りが含まれることを許容しなければならない。本品質評価手順書では、「公共測量作業規程」に従い、“測量区域の総面積 2%”をサンプリングし、抜取検査を適用するレポーティンググループの品質を評価する。

“測量区域の総面積 2%”のサンプリングの手順を次に示す。

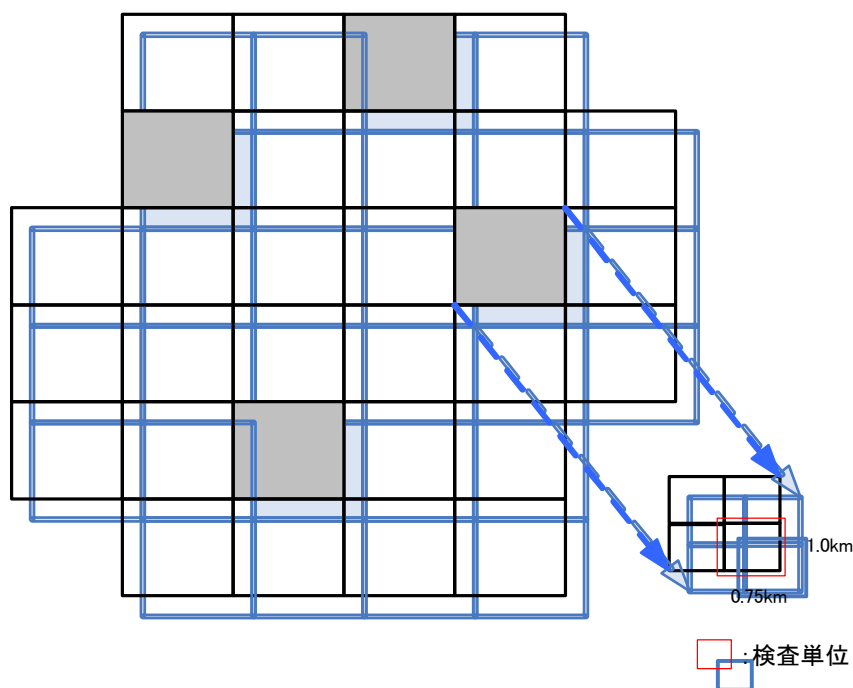
#### ① ロットの形成

データの作成方法別にロットを形成する（※ロット：等しい条件下で生産され又は生産されたとと思われる品物の集まり。JIS Z 8101）。

例）デジタルマッピングで作成した範囲／既成図数値化で作成した範囲

#### ② 検査単位の分割

ロットは三重県全域とし、検査単位は 2500 国土基本図 1/4 図郭で分割したものとする。



#### ③ 検査単位の抽出

検査単位は市町毎とし、その面積の 2%を検査単位として抽出する。面積の 2%が  $0.75 \text{ km}^2$ に

満たない場合（測量区域が 37.5k m<sup>2</sup>未満の場合）は、必ず 0.75k m<sup>2</sup>を検査することとし、旧市町村で必ず 1 メッシュを以上を抽出する。

検査対象のメッシュは無作為抽出もしくは監督員、検査者が指定したメッシュとする。

無作為抽出は、2500 国土基本図 1/4 図郭に一連番号を付し、乱数表によって決定する。ただし、次の条件に留意し、適合しない場合は隣接メッシュを採用する。

- ・ 海、河川等の白部でない地域
- ・ 各種表現事項が包含されている地域
- ・ 重要な施設又は建物等が集中している地域

以上